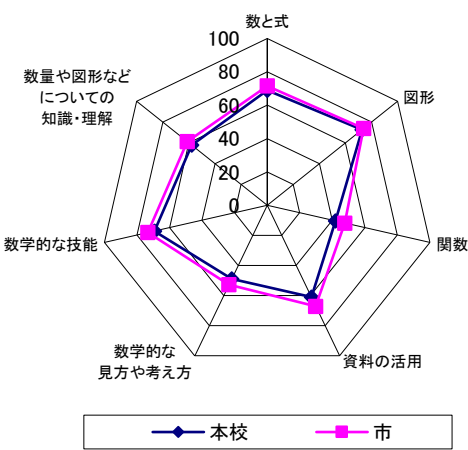


宇都宮市立鬼怒中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	68.9	71.5	66.8
	図形	72.7	73.8	70.4
	関数	41.9	47.8	41.6
	資料の活用	61.0	67.1	61.4
観点別	数学的な見方や考え方	48.9	52.8	45.8
	数学的な技能	69.3	73.3	68.1
	数量や図形などについての知識・理解	57.8	61.2	57.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	●数と式の領域では、市の平均より2.6ポイント低い。 ○ $(x+m)^2=n$ の形の2次方程式を解く問題では、市の平均より5ポイント高い。	・単項式の乗除の混じった計算の正答率が特に低い。文字同士の約分、割る数は分母にくる、などの基本的事項を理解していない可能性が高い。問題演習を多く行い、繰り返し指導を行う。
図形	●図形の領域では、市の平均より約1ポイント低い、ほぼ同じである。 ○証明の必要性和意味を問う問題では、市の平均より約6ポイント高い。	・証明の必要性を問う問題では正答率が高いが、実際の証明問題は市の平均より低い。合同や相似の証明を行うために、どのような条件が必要なのかを明確にするよう指導し、演習問題を行うことで証明が書けるようになる。
関数	●関数の領域では、市の平均より約6ポイント低い。特に関数について、基本的な定義を問う問題では、市の平均より約10ポイントも低く、関数 $y=ax^2$ の変域を問う問題では、約13ポイントも低かった。	・関数 $y=ax^2$ における y の変域を問う問題の正答率が特に低かったことから、授業において特に念入りに指導し、演習問題を行うことで理解を深める。
資料の活用	●資料の活用の領域では、市の平均より約6ポイント低い。	・相対度数や割合を求める問題や、ヒストグラムの特徴を説明する問題の正答率が低いことから、代表値の求め方や、それぞれの値の意味を理解できるよう、問題演習に多く取り組ませる。